

アメリカで育てる

永住や長期滞在の子どもの教育のために

INFOE（海外子女教育情報センター）
松本輝彦

第 13 回

日本語・日本文化を学ばせる（１）

— 北米でのチョイス —

「日本人に育てたい」、「日本語・国語の力を伸ばしたい」、「日本の習慣・文化をしっかり身につけさせたい」
アメリカの教育に加えて、「日本」を子どもに身につけさせたい保護者の希望を反映した言葉です。
それでは、アメリカの生活が長く、帰国予定のない子どもには、どんなチョイスやチャンスがあるのでしょうか？

1、日本人学校

海外にある、日本の学校のコピーです。日本の学校と同じカリキュラム（文部科学省の指導要領）に従った日本語での教育を、週日の朝から夕方まで（全日制）受けられます。

北米にはニューヨーク・ニュージャージー・シカゴ・ロサンゼルス（私立）の４校で、あわせて数百人が学んでいます。世界の他の地域に比べて、日本人学校で学ぶ子どもの割合が小さいのは、アメリカの教育と英語での教育への期待です。そのため、比較的短かい滞在予定の子どもが在籍しているのが実情です。

2、補習授業校

現地校での学習と並行して、週末や週日の夕方に日本の学校のカリキュラム・教科の一部を学ぶ学校です。

北米には十人程度から千人以上の子どもが学ぶ学校まで約 90 校あり、およそ 1 万 5 千人の子どもが学んでいます。

海外に一時的に滞在する子どもが日本帰国後の学習で困らないように指導するのが、補習校の本来の目的です。そのため、日本の学校と同じ教科書を使用して授業をします。

近年、滞在の長い子どもが半数以上を占める北米の補習校が多くなり、その教育にも変化が起きています。それは、日本から来て間もない子どもと長期滞在児童生徒の間の日本語力・日本語での学力の差が大きく、日本の学校のような一斉授業が困難になる問題です。多くの補習校は、日本語力のレベル別のクラスを作り対応していますが、財政をはじめ様々な問題が生じています。

長期滞在の子どもにとって、英語での現地校の勉強と日本語での補習校の勉強を並行して続けるのは大変です。それは、勉強の量だけではなく、「日本帰国を前提にしていた内容とレベルの勉強をなぜしなければならないのか」と

いう学習意欲が保てないからです。そのため、「話す聞く」学習から「読み書き」中心の学習に移る小学校高学年や、現地校の学習量が急増する中学で、補習校をやめる子どもが多くなります。

しかし、言語習得の完成期である中学 1・2 年まで、日米の学習をやり遂げた子どもで、どちらもネイティブレベルのバイリンガルに育った若者が多く出てきています。

3、日本語学校

「日本語を英語で教えるのが日本語学校」と定義します。

日系人の人たちが子弟の教育のために作った学校で、北米の大都市や歴史的に日系人の多く住む地域にあります。

家庭で日本語以外の言葉を使って生活している子どもを対象とし、外国語としての日本語や日本文化の教育が中心です。日本語力が高いと日本語で指導する学校もあります。

4、塾・家庭教師

子どもの日本語力や興味に応じて、個人や少人数で指導を受けます。比較的日本語・国語力の弱くなった子どもを対象にしたクラスを設ける、大都市の日本人向けの塾が増えてきています。

お子さんには、どの学校？

日本語・日本文化を学べる場所を、整理してみました。

どこで学ばせるかは、お子さんをどのレベルまで教育したいのかによって異なります。日本語で日常会話なら 1、バイリンガル・バイカルチャーになら 2、と選べます。

皆さんの選択が、お子さんの将来の進路や、皆さん自身の老後の生活場所にも影響してくることも、お忘れなく。

次回は、「日本でのチョイス」として、体験入学や長期滞在（留学？）のチョイスについてお話します。また、長期滞在できるユニークな日本の学校も紹介します。ご期待ください。